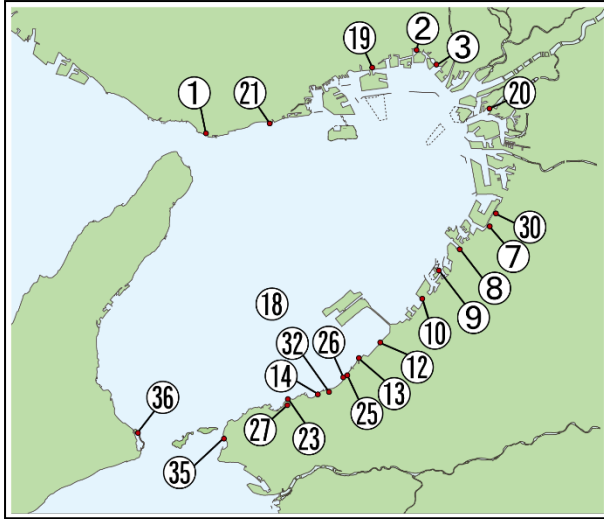


令和7年度 第18回大阪湾生き物一斉調査について

1. 調査概要

令和7年度は、5月24日を中心に、大阪湾沿岸域の21地点（アマモ場等調査4地点を含む）と大阪湾内（スナメリ調査）の全22地点において、28団体、1,115名が参加して、第18回大阪湾生き物一斉調査を実施しました。調査地点及び担当団体等は図1に示すとおりです。

【調査地点】



【兵庫県内】	
調査地点	担当団体
1 アジュール舞子	わくわくネイチャーらぼ神戸「いきものしらべ隊」[5/17]
21 須磨海岸	一般社団法人 須磨里海の会[5/25]
19 住吉川河口	一般社団法人 須磨里海の会[6/28]
2 香櫨園浜	西宮市貝類館[5/25]
3 甲子園浜	NPO法人海浜の自然環境を守る会[5/27、5/29]
36 成ヶ島	公益社団法人 大阪自然環境保全協会 チーム虹鯉[7/27]

【和歌山県内】	
調査地点	担当団体
35 城ヶ崎（加太）	公益社団法人 大阪自然環境保全協会 海のふしぎ観察会[5/25]

【大阪府内】	
調査地点	担当団体
20 天保山	海遊館[5/31]
30 浜寺水路	浜寺公園自然の会[5/27]
7 高師浜	浜寺公園自然の会[5/24]
8 大津川河口（左岸）	きしわだ自然資料館[6/27]
9 阪南2区造成干潟	きしわだ自然資料館[6/29]
10 近木川河口	貝塚市立自然遊学館[5/25]
12 榎井川河口・岡田浦海岸	男里川干潟を守る会[5/24]
13 男里川河口干潟	東鳥取小学校、チーム☆ガサ、NPO法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター【中止】 尾崎小学校（4年生）、チーム☆ガサ、NPO大阪湾沿岸域環境創造研究センター[6/25] 尾崎小学校（6年生）、チーム☆ガサ、NPO大阪湾沿岸域環境創造研究センター【中止】
25 尾崎海岸	舞小学校、西鳥取小学校、北京大学、チーム☆ガサ、NPO大阪湾沿岸域環境創造研究センター[6/27]
26 波有手海岸	フロロジス、NPO大阪湾沿岸域環境創造研究センター、チーム☆ガサ[5/16] 東京海上日動火災保険、チーム☆ガサ、NPO大阪湾沿岸域環境創造研究センター[6/14] セブンイレブン記念財団、チーム☆ガサ、NPO大阪湾沿岸域環境創造研究センター[6/15]
32 箱作自然海岸	下荘小学校、チーム☆ガサ、NPO大阪湾沿岸域環境創造研究センター[7/10]
14 せんなん里海公園	里海くらぶ連絡協議会、チーム☆ガサ[5/10] せんなん里海公園管理事務所、岬高校(2年生) [6/2] せんなん里海公園管理事務所、岬高校(3年生) [6/27] 海遊館[5/25]
23 長松海岸	公益社団法人 大阪自然環境保全協会 空の会 [5/1、5/14]
18 大阪湾[カワ]調査	大阪ECO動物海洋専門学校、海遊館[5/7]
27 深日漁港干潟	岬町立岬中学校科学部、CIFER・コア[5/24]

注）アマモ場等調査は⑬男里川河口干潟、⑮尾崎海岸、⑯波有手海岸、⑳箱作自然海岸で実施した。

図1 令和7年度の調査地点一覧

【大阪湾海岸生物ウェルカムリスト（無脊椎動物・海藻・海草、2022年版）※】

大阪湾海岸生物ウェルカムリストとは、大阪湾の環境改善や干潟・藻場等の整備等の大阪湾再生の取り組みにより、大阪湾において、今後、新たに定着あるいは分布範囲の拡大を期待する生物種を選定したリストのことです。以下のとおりランク付けしています。

- A：大阪湾内では近年（1950年代以降）の記録が無い（ただし近隣海域では記録されている）か、記録がごく限られていて、生育・生息基盤が脆弱であると考えられる種。〔目安として、文献等による記録・情報が0～2箇所以下〕
- B：大阪湾内では産地が限られていて、今後分布の拡大が期待される種。〔同3～5箇所〕
- C：大阪湾内では多数の地点で記録され、かつ良好な環境（水質・底質・地形）*の目安となる種。〔同6箇所以上〕

*大阪湾再生行動計画（第二期）では、目標要素「豊かな魚庭（なにわ）の海」の施策の一つとして、「藻場、干潟、浅場、緩傾斜護岸等の整備」を掲げています。

このため、大阪湾再生行動計画に基づいて取り組まれている湾内の水質改善と干潟、砂浜、藻場、浅場、親水護岸等の整備によって期待される生物にとって好ましい環境を対象としました。

2. 出現種

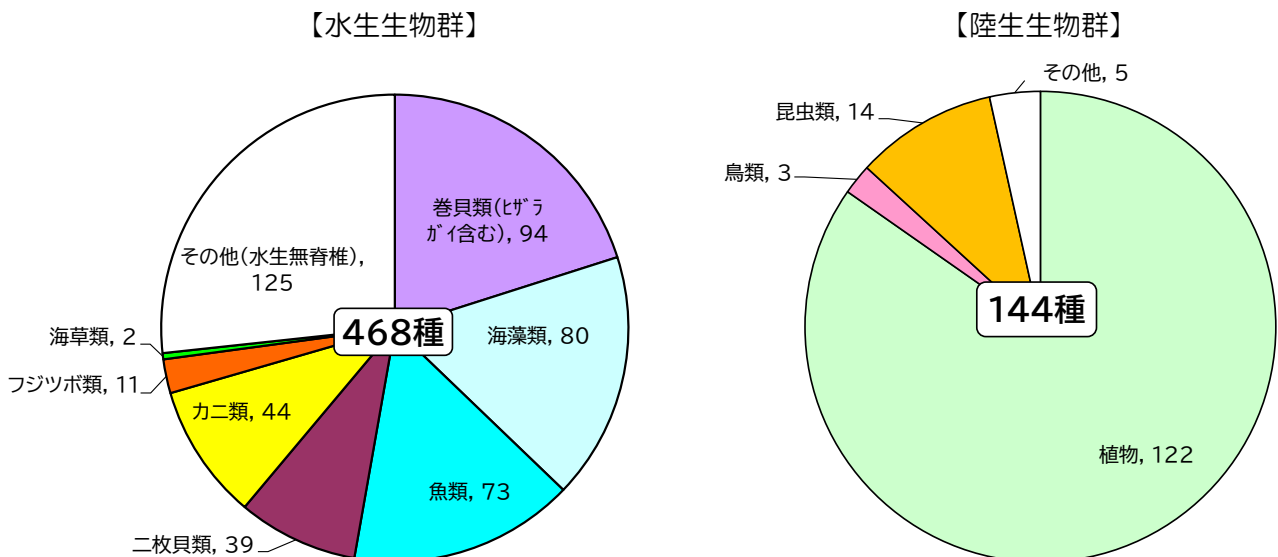
本年度の大阪湾生き物一斉調査によって確認された出現種を図2、表1に示しました。

種名まで判別した種類は全体で612種（うち、調査シート掲載種42種）でした。

全体の出現種については、水生生物群では、動物は貝類が133種（巻き貝94種、二枚貝39種）、海藻類及び海草類が82種、魚類が73種、カニ類が44種等でした。また、陸生生物群では、陸上植物が122種、昆虫類が14種、鳥類が3種等でした。

出現種のうち、大阪湾海岸生物ウェルカムリストに該当した種類は、Aランクが海藻類のエナシダシア、貝類のキンランカノコの2種、Bランクが海藻類のカゴメノリ、海草類のコアマモ、貝類のイボウミナ、ウズザクラガイ、カニ類のトリウミアカイソモドキ、エビ類のツノモエビ等の15種、Cランクが海草類のアマモ、貝類のアラムシロガイ、イワガキ、多毛類のタマシキゴカイ、ヤドカリ類のコブヨコバサミ、カニ類のアカテガニ、頭足類のヒメイカ、アナジャコ類のハルマンズナモグリ、エビ類のクルマエビ、ナマコ類のヒモイカリナマコ等の41種で合計58種でした。

出現種のうち特筆すべき種として、兵庫県、大阪府、水産庁、WWF、干潟の絶滅危惧動物図鑑の各RDBと環境省のレッドリスト（2020年・2025年）に掲載されている種に該当するものを付表1に示しました。全体の貴重種としては66種類（属含む、陸生種除く）が該当しました。このうち、海藻・海草類はスジアオノリ、フサノリ、アマモ等の5種、植物（リスト掲載種のみ）はコウボウムギ等の3種、動物では、貝類がアカニシ、イワガキ等の32種、多毛類がタマシキゴカイの1種、ヨコエビ・ワレカラ類がウエノドロクダムシの1種、ヤドカリ類がテナガツノヤドカリ等の2種、カニ類はアカテガニ等の13種、魚類はトサカギンボ等の2種、その他はヒメイカ、ハルマンズナモグリ、エビジャコ類、ヒモイカリナマコ等の7種等でした。



注) 1. 数字は種数を示す。

2. 陸生生物群の「その他」は爬虫類、両生類、陸生無脊椎動物を含む。

図2 令和7年度出現種の分類群別種数（全体）

表1(1) 令和7年度出現種一覧

分類群	No.	和名・種名	WL	分類群	No.	和名・種名	WL			
海藻類	緑藻類	1	アオサ属(アオサ型)		海藻類 (つづき)	紅藻綱 (つづき)	67	ニクムカデ		
		2	アオサ属(アオリ型)				68	ハイウスバノリ属		
		3	アナアオサ				69	ハイテングサ		
		4	ウスバアオリ				70	ヒメテングサ		
		5	ウスバミル				71	ヒライボ		
		6	カイゴロモ				72	ヒラムカデ		
		7	シオグサ属				73	ビリヒバ		
		8	スジアオリ				74	フクロフノリ		
		9	ツヤナシシオグサ				75	フサノリ		
		10	ヒトエグサ				76	フシツナギ		
		11	ヒラアオリ				77	フダラク		
		12	ボウアオリ				78	ベニスナゴ		
		13	ボタンアオサ				79	ペニマダラ		
		14	ミル				80	ホソアヤギヌ	B	
		15	ワタシオグサ				81	マクサ		
	褐藻綱	16	アカモク				82	マツノリ		
		17	アミジグサ				83	マツバライギス		
		18	イノガワラ				84	ミノゴノリ		
		19	イソモク				85	ムカデノリ		
		20	ウミウチワ				86	ムカデノリ属		
		21	ウミトラノオ				87	無節サンゴモ類		
		22	カゴメノリ	B			88	ヤレウスバノリ		
		23	カジメ				89	ユカリ		
		24	カヤモノリ				90	アイミドリ		
		25	サナダグサ				海藻類	1	アマモ	C
		26	シオミドロ目					2	アマモ科	
		27	シワノカワ					3	コアマモ	B
		28	シワヤハズ				植物	1	アイアシ	
		29	タマハハキモク					2	アカメガシワ	
		30	ネノリモ					3	アキニレ	
		31	ヒジキ		4	アキノミチヤナギ				
		32	フクロノリ		5	アケビ				
		33	フトモズク	B	6	アメリカネナシカズラ				
		34	ヘラヤハズ		7	アレチギンギシ				
		35	マメタワラ		8	アロエ属				
		36	ヤハズグサ		9	イタドリ				
	37	ヨレモクモドキ		10	イチゴツナギ属					
	38	ワカメ		11	イヌカキネガラシ					
	紅藻綱	39	イシゴロモ科		12	イヌコモチナデシコ				
		40	イノダンツウ		13	イヌビワ				
		41	イトグサ属		14	イヌムギ				
		42	イバラノリ		15	イヨカズラ				
		43	エチゴカニノテ(ウスカワカニノテ)		16	ウシオハナツメクサ				
		44	エナシダジア	A	17	ウバメガシ				
		45	オオオゴノリ		18	エノキ				
		46	オオバツノマタ		19	エノコログサ				
		47	オオマタオキツノリ		20	オオアレチノギク				
		48	オキツノリ		21	オオオナモミ				
		49	オゴノリ		22	オオシマザクラ				
		50	オゴノリ属		23	オオフタバムグラ				
		51	オバクサ		24	オカヒジキ				
		52	カイノリ		25	オシロイバナ				
		53	カバノリ		26	オッタチカタバミ				
		54	キプリイトグサ		27	オニシバ				
		55	キョウノヒモ		28	オニヤブソテツ				
		56	コスジフシツナギ		29	カタバミ				
		57	コメノリ		30	カタボウシノケグサ				
		58	シラモ		31	カナムグラ				
		59	スギノリ		32	カモジグサ				
		60	ススカケベニ		33	カラクサナズナ				
		61	タオヤギソウ		34	カラスムギ				
		62	ツノマタ		35	ギンギシ				
		63	ツノムカデ		36	ギョウギシバ				
		64	ツルシラモ		37	クサスギカズラ				
		65	ツルツル		38	クズ				
		66	トサカマツ		39	クスノキ				

- 注) 1) 種類の記載順は各分類群の中で五十音順。アルファベットは先頭。
 2) WL 欄は大阪湾海岸生物ウエルカムリストの区分を示す。
 3) :種まで同定されていないもの(種数に含めない。ただし、カニ類のヒライソガニ属は単一種とする)
 4) 海藻類のウスカワカニノテは以下の文献によりエチゴカニノテに統合した。
 吉田忠生・鈴木雅大・吉永一男 2015. 日本産海藻目録(2015年改訂版). 藻類, 63:129-189.
 5) 海藻類のカギウスバノリは以下の文献によりヤレウスバノリに統合した。

Kang, J.C., Lin, S.-M., Miller, K.A., Kim, M.S. 2021. Revision of Hook-Forming Acrosorium (Delesseriaceae, Rhodophyta) from the Northwestern Pacific Based on Morphology and Molecular Data. Plants 2021, 10, 2269.

表1 (2) 令和7年度出現種一覧

分類群	No.	和名・種名	WL	分類群	No.	和名・種名	WL		
植物 (つづき)	40	クロマツ		植物 (つづき)	112	ホソバハマアカザ			
	41	グンバイヒルガオ			113	マサキ			
	42	コアカザ			114	ママコノシリヌグイ			
	43	コウボウシバ			115	マメグンバイナズナ			
	44	コウボウムギ			116	マンテマ属			
	45	コセンダングサ			117	マンネングサ属			
	46	コバノタツナミソウ			118	ミチヤナギ			
	47	コバンソウ			119	メヒシバ			
	48	コマツヨイグサ			120	メマツヨイグサ			
	49	コメツブウマゴヤシ			121	ヤエムグラ			
	50	サナエタデ			122	ヤナギ科			
	51	サルトリイバラ			123	ヤノネボンテンカ			
	52	シオクグ			124	ヤブカラシ			
	53	シナサワグルミ			125	ヤブジラミ			
	54	シナダレスズメガヤ			126	ヨウシュヤマゴボウ			
	55	シバ			127	ヨシ			
	56	シャリンバイ			128	ヨモギ			
	57	シロザ			129	ランタナ(シチヘンゲ)			
	58	スイカズラ			貝類	貝(ヒザラガイ類)	1	ウスヒザラガイ	
	59	ススキ					2	ケハダヒザラガイ	
	60	スズメノチャヒキ					3	ババガセ	
	61	スズメノチャヒキ属					4	ヒザラガイ	
	62	セイタカハハコグサ					5	ヒメケハダヒザラガイ	
	63	セイバンモロコシ					6	ヤスリヒザラガイ	
	64	センダン			貝(巻き貝)	7	Patelloida属		
	65	ダンチク				8	アオウミウシ		
	66	チガヤ				9	アオガイ		
	67	ツキミマンテマ				10	アカエラミノウミウシ		
	68	ツユクサ				11	アカニシ		
	69	ツルナ				12	アシヤガイ		
	70	ツルニチニチソウ				13	アマオブネガイ		
	71	ツルヨシ				14	アマガイ		
	72	ツワブキ				15	アマクサアメフラシ		
	73	テリハノイバラ				16	アメフラシ		
	74	トゲヂシャ				17	アラムシロガイ	C	
	75	トベラ				18	アラレタマキビガイ		
	76	ナガバギシギシ				19	イシタミガイ		
	77	ナガミヒナゲシ				20	イシマキガイ	C	
	78	ナギナタガヤ				21	イズミドリガイ		
	79	ナルトサワギク				22	イナザワハベガイ	C	
	80	ナンキンハゼ				23	イボウミナ	B	
	81	ヌカススキ				24	イボタマキビガイ		
	82	ヌルテ				25	イボニシ		
	83	ネズミホソムギ				26	ウスコムミガイ	C	
	84	ネズミムギ属				27	ウノアシガイ		
	85	ノイバラ				28	ウミニナ	C	
	86	ノゲシ				29	ウミフクロウ		
	87	ノブドウ				30	エビスガイ		
	88	ノラニンジン				31	オオヘビガイ		
	89	ハマウド				32	オカダウミウシ		
	90	ハマエンドウ				33	オトメウミウシ		
	91	ハマオモト				34	オトメガサ		
	92	ハマゴウ				35	カスリアオガイ		
	93	ハマサジ				36	カモガイ		
	94	ハマスゲ				37	カヤノミカニモリ		
	95	ハマゼリ				38	カラマツガイ		
	96	ハマダイコン				39	キクノハナガイ		
	97	ハマツメクサ				40	キヌハダウミウシ		
	98	ハマナデシコ				41	キンイロセトモノガイ		
	99	ハマヒルガオ				42	キンランカノコ	A	
	100	ハマボウ				43	クサイロアオガイ		
	101	ハマボウフウ				44	クボガイ		
	102	ハマボツス				45	クマノコガイ		
	103	ハママツナ				46	クモリアオガイ		
	104	ヒエガエリ				47	クリイロカワザンシヨウ属		
	105	ヒメクマツヅラ				48	クリフレイシガイ		
	106	ヒメコバンソウ				49	クロコソデウミウシ		
	107	ヒルザキツキミソウ				50	クロシタナシウミウシ		
	108	フチベニベンケイ				51	クロツケガイ		
	109	ヘクソカズラ				52	コウダカアオガイ		
	110	ヘラオオバコ				53	コウダカマツムシ		
	111	ホコガタアカザ			54	コガモガイ			

注) 1) 種類の記載順は各分類群の中で五十音順。アルファベットは先頭。

2) WL 欄は大阪湾海岸生物ウエルカムリストの区分を示す。

3) : 種まで同定されていないもの(種数に含めない)。ただし、カニ類のヒライソガニ属は単一種とする)

表1(3) 令和7年度出現種一覧

分類群	No.	和名・種名	WL	分類群	No.	和名・種名	WL			
貝類 (つづき)	貝(巻き貝) (つづき)	55	コシダカガンガラ		貝類 (つづき)	貝(二枚貝) (つづき)	127	ヒメアサリ		
		56	コビトウラウスガイ				128	ヒメシラトリガイ	C	
		57	コベルトカニモリガイ				129	フクレユキミノガイ		
		58	ゴマフニナ				130	ホトギスガイ		
		59	コモレビコガモガイ				131	ホンビノスガイ		
		60	サザエ				132	マガキ		
		61	シボリガイ	C			133	マテガイ	C	
		62	シマハマツボ				134	マルミエガイ		
		63	シマメノウフネガイ				135	ミドリイガイ		
		64	シラギクガイ				136	ミミエガイ		
		65	スオウクチキレガイ				137	ムラサキイガイ		
		66	スガイ				138	ユウシオガイ	C	
		67	スズメハマツボ				多毛類	1	Eulalia属	
		68	セスジミノウミウシ					2	Hydroides属	
		69	タマキビガイ					3	アシナガゴカイ	
		70	タマツボ					4	ウズマキゴカイ科	
		71	チグサガイ					5	エゾカサネカンザシゴカイ	
		72	ツボミガイ	B				6	オイワケゴカイ	
		73	トコブシ		7	オウギゴカイ				
		74	トロウミウシ		8	カサネカンザシゴカイ				
		75	ヒメクボガイ		9	カンザシゴカイ科				
		76	ヒメコザラガイ		10	クマノアシツキ				
		77	ヒメムシロガイ		11	ゴカイ科				
		78	ヒモイカリナマコツマミガイ	C	12	サミドリサシバ				
		79	ヒラミルミドリガイ		13	サンハチウロコムシ				
		80	ヒロウミウシ		14	シライトゴカイ				
		81	ブドウガイ		15	タマシキゴカイ		C		
		82	フトヘナタリ	C	16	タマシキゴカイ科				
		83	フレイトゲアメフラシ	C	17	チロリ科				
		84	ヘソカドガイ	B	18	ツルヒゲゴカイ				
		85	ベッコウガサガイ		19	ナデシコカンザシゴカイ				
		86	ボサツガイ		20	ヒメゴカイ				
		87	ホソウミニナ	C	21	ホソトゲカンザシゴカイ				
		88	ホソスジアオガイ		22	マダラウロコムシ亜科				
		89	マツバガイ		23	ミズヒキゴカイ科				
		90	マルウスラタマキビガイ	C	24	ミロクウロコムシ				
		91	ミツクチキリオレガイ科		25	ムツエダカンザシゴカイ				
		92	ミミガイ属		26	ヤスリウロコムシ				
		93	ミヤコドリガイ	C	27	ヤッコカンザシゴカイ				
		94	ムギガイ		28	多毛類				
		95	ヤツミノウミウシ		ヨコエビ・ワレカラ類	1	アリアケドロクダムシ			
		96	ヤマトウミウシ			2	ウエノドロクダムシ			
		97	ヨメガカサガイ			3	オオワレカラ			
		98	レイシガイ			4	クビナガワレカラ			
		貝(二枚貝)	99	アオカリガネエガイ			5	トウヨウステンナリヨコエビ属		
			100	アサリ			6	トゲワレカラ		
			101	イワガキ		C	7	トゲワレカラモドキ		
			102	ウスカラシオツガイ			8	ドロクダムシ科		
	103		ウズザクラガイ	B		9	トンガリドロクダムシ			
	104		ウネナントマヤガイ			10	ニッポンメリタヨコエビ			
	105		カガミガイ			11	ニホンドロソコエビ			
	106		カリガネエガイ			12	ハマトビムシ科			
	107		キクザルガイ		13	ヒゲツノメリタヨコエビ				
	108		キヌマトイガイ		14	ヒゲナガヨコエビ属				
	109		クイチガイサルボウ		15	ヒメハマトビムシ種群				
	110		クジャクガイ		16	フサゲモクス				
	111		クチバガイ	C	17	フトメリタヨコエビ				
	112		クチベニデガイ		18	ホソヨコエビ属				
	113		クログチ	B	19	マルエラワレカラ				
	114		ケガキ(ケガキ属を含む)		20	ヨツデヒゲナガ				
	115		コウロエンカワヒバリガイ		21	ワレカラ科				
	116		サルボウガイ	C	22	ワレカラ属				
	117		セミアサリ		23	ヨコエビ類				
	118		ソトオリガイ	B	フジツボ類	1	アカフジツボ			
	119		タガンデモドキ			2	アミメフジツボ			
	120		チリハキガイ	B		3	アメリカフジツボ			
	121		トマヤガイ			4	イワフジツボ			
	122		ナミマガシワガイ			5	カメノテ			
	123		ニッポンマメアゲマキガイ	B		6	クロフジツボ			
	124		バカガイ	C		7	サンカクフジツボ			
	125		ヒバリガイ			8	シロスジフジツボ			
	126		ヒバリガイモドキ			9	タデジマフジツボ			

注) 1) 種類の記載順は各分類群の中で五十音順。アルファベットは先頭。
 2) WL 欄は大阪湾海岸生物ウエルカムリストの区分を示す。
 3) : 種まで同定されていないもの(種数に含めない。ただし、カニ類のヒライソガニ属は単一種とする)

表1 (4) 令和7年度出現種一覧

分類群		No.	和名・種名	WL	分類群	No.	和名・種名	WL	
フジツボ類 (つづき)		10	ドロフジツボ		魚類 (つづき)	硬骨魚綱 (つづき)	9	アベハゼ	
		11	ヨーロッパフジツボ				10	アミメハギ	
ヤドカリ類		1	イクビホンヤドカリ		11	イシガレイ			
		2	イソカナダマシ		12	イソギンボ			
		3	イソカナダマシ属		13	イソミズハゼ			
		4	イソヨコバサミ		14	イダテンカジカ			
		5	ケアシホンヤドカリ		15	イダテンギンボ			
		6	ケブカヒメヨコバサミ		16	オオカズナギ			
		7	コブカナダマシ		17	オクヨウジ			
		8	コブヨコバサミ	C	18	オニオコゼ			
		9	ツノヤドカリ属		19	カゴカキダイ			
		10	テナガツノヤドカリ	C	20	カサゴ			
		11	ヒラトゲガニ		21	カズナギ属			
		12	フトウデネジレカナダマシ		22	カタクチイワシ			
		13	ホンヤドカリ		23	カマス属			
		14	ユビナガホンヤドカリ		24	カワハギ			
		15	ヨモギホンヤドカリ		25	キチヌ			
カニ類		1	アカテガニ	C	26	キュウセン			
		2	アシハラガニ	C	27	ギンガメアジ			
		3	イシガニ		28	ギンボ			
		4	イシガニ属		29	クサフグ			
		5	イソガニ		30	クジメ			
		6	イッカククモガニ		31	クロウシノシタ			
		7	イワガニ		32	クロダイ			
		8	オウギガニ		33	コイ			
		9	オサガニ	C	34	コシヨウダイ			
		10	オヨギピンノ		35	コトヒキ			
		11	カクベンケイガニ		36	コモンフグ			
		12	ガザミ		37	ゴンズイ			
		13	キンセンガニ属		38	サヨリ			
		14	クロベンケイガニ		39	サヨリ属			
		15	ケブカアワツブガニ		40	サラサカジカ			
		16	ケフサイソガニ		41	シロギス			
		17	サメハダオウギガニ		42	スジハゼ			
		18	ショウジンガニ		43	スズキ			
		19	スエヒロガニ		44	スズキ属			
		20	スナガニ	C	45	スズメダイ			
		21	スネナガイソガニ	C	46	セスジボラ			
		22	スベスベオウギガニ		47	ダイナンギンボ			
		23	タイワンガザミ		48	タケギンボ			
		24	タカノケフサイソガニ		49	タケノコメバル			
		25	チチュウカイミドリガニ		50	タツノオトシゴ			
		26	トガリオウギガニ		51	チヂブ			
		27	トリウミアカイソモドキ	B	52	チヂブ属			
		28	ハクセンシオマネキ	C	53	ツルウバウオ			
		29	ヒメアカイソガニ		54	トサカギンボ			
		30	ヒメケブカガニ		55	トビヌメリ			
		31	ヒメソバカラガニ		56	トラフグ属			
		32	ヒメベンケイガニ		57	ドロメ			
		33	ヒメヤマトオサガニ	B	58	ナベカ			
		34	ヒライソガニ		59	ニクハゼ			
		35	ヒライソガニ属(ケアシヒライソガニ)	C	60	ニジギンボ			
		36	フタバカクガニ	C	61	ネズミゴチ			
		37	ヘリトリマンジュウガニ		62	ハオコゼ			
		38	ベンケイガニ		63	ハゼ科			
		39	マメコブシガニ	C	64	ヒイラギ			
		40	マメツブガニ		65	ヒガンフグ			
		41	モガニ属		66	ヒメハゼ			
		42	モクスガニ		67	ヒラメ			
		43	ヤマトオサガニ	C	68	フグ科			
		44	ヤウラガニ		69	ベニツケギンボ			
		45	ヨツハモガニ		70	ヘビギンボ			
		46	ヨツハモドキ		71	ホウボウ			
		47	ラスバンマメガニ		72	ホシギンボ			
魚類	軟骨魚綱	1	アカエイ		73	ボラ			
		2	アイゴ		74	ボラ科			
	硬骨魚綱	3	アオタナゴ		75	マコガレイ			
		4	アオヤガラ		76	マダイ			
		5	アカオビシマハゼ		77	マハゼ			
		6	アゴハゼ		78	ミズハゼ属			
		7	アサヒアナハゼ		79	ムスジガジ			
		8	アナハゼ		80	ムラソイ			

注) 1) 種類の記載順は各分類群の中で五十音順。アルファベットは先頭。
 2) WL 欄は大阪湾海岸生物ウエルカムリストの区分を示す。
 3) : 種まで同定されていないもの(種数に含めない。ただし、カニ類のヒライソガニ属は単一種とする)

表1 (5) 令和7年度出現種一覧

分類群		No.	和名・種名	WL	分類群	No.	和名・種名	WL	
魚類 (つづき)	硬骨魚綱 (つづき)	81	メジナ		ホシムシ類	42	イケダホシムシ		
		82	メバル属複合種群			43	イソミズ		
		83	ヤガラ属			クモ類	44	イソハエトリ	
		84	ヨウジウオ				45	ウヅキコモリグモ	
		85	ヨメヒメジ				等脚類	46	アオホシフナムシ
昆虫類	1	アオバアリガタハネカクシ		47	イソツブムシ属				
	2	ウスモンコムズギワゴミムシ		48	ウミズムシ科				
	3	オオアバタウミベハネカクシ		49	エビヤドリムシ科				
	4	オオスナゴミムシダマシ		50	キタフナムシ				
	5	オンフバッタ属		51	シリケンウミセミ				
	6	カンジンナギサハネカクシ		52	トラフナムシ				
	7	ショウリョウバッタ		53	フクロムシ				
	8	ツヤケシアカバウミベハネカクシ		54	フクロムシ科				
	9	トビイロシワアリ		55	フトゲコツブムシ				
	10	ハサミムシ目		56	フナムシ属				
	11	ヒメシリグロハネカクシ		57	ヘラムシ科				
	12	フトツヤケシヒゲフトハネカクシ		タナイス類	58	キスイタナイス			
	13	マルシラホシカメムシ			アナジャコ類	59	アナジャコ属		
	14	ミナミヒョウタンナガカメムシ				60	ハルマンスナモグリ	C	
	15	ムラサキウミトビムシ				61	ヨコヤアナジャコ	C	
	16	ヤナギハムシ			エビ類	62	アシナガスジエビ		
鳥類	1	カルガモ				63	イソスジエビ		
	2	カワウ				64	イソテッポウエビ種群		
	3	コアジサシ				65	イソモエビ		
両生類	1	ウシガエル				66	ウシエビ		
	2	ヌマガエル				67	エビジャコ属		
爬虫類	1	ミシシッピアカミミガメ		68		クマエビ			
	その他 (つづき)	1	カワナシカイメン科			69	クルマエビ	C	
2		クロイソカイメン		70		クルマエビ科			
3		コエダカイメン		71		コシマカリモエビ	C		
4		ダイダイイソカイメン		72	スジエビモドキ				
5		ナミイソカイメン		73	ツノモエビ	B			
6		ムラサキカイメン		74	テッポウエビ	C			
7		カザリクラゲ		75	テッポウエビ属の一種E*				
8		ベニクダウミヒドラ		76	テナガエビ属				
9		アカクラゲ		77	ヌマエビ科				
10		カキノテクラゲ		78	ホソモエビ				
11	カフトクラゲ		79	ユビナガスジエビ					
12	カミクラゲ		80	ヨシエビ	C				
13	ミスクラゲ		ヒトデ類	81	イトマキヒトデ				
14	イソギンチャク目			82	キヒトデ(マヒトデ)				
15	ウメボシイソギンチャク科			83	チビイトマキヒトデ				
16	タテジマイソギンチャク			84	トゲモミジガイ				
17	ヒメイソギンチャク			85	ヌノメイトマキヒトデ				
18	ペリイソギンチャク		86	ヌメハダヒメヒトデ					
19	ミドリイソギンチャク		87	ヒメヒトデ					
20	ヨロイイソギンチャク		88	ヤツデヒトデ					
21	ヨロイイソギンチャク属		クモヒトデ類	89	ナガトゲクモヒトデ				
22	ウスヒラムシ			90	ニホンクモヒトデ				
ヒラムシ類	23	ツノヒラムシ		ウニ類	91	サンショウウニ			
	24	ヒラムシ類			92	バフンウニ			
	25	ミノヒラムシ			93	ムラサキウニ			
	ヒモムシ類	26	ヒモムシ類		ナマコ類	94	アカナマコ		
27		ホソドリヒモムシ		95		イカリナマコ科			
28		ミドリヒモムシ		96		ヒモイカリナマコ	C		
29	マダコ		97	マナマコ					
コケムシ類	30	Bugulina stolonifera		ホヤ類	98	イタボヤ科			
	31	アミメコケムシ科			99	エボヤ			
	32	エリアナコケムシ			100	カタユウレイボヤ			
	33	コブヒラコケムシ			101	シロウスボヤ			
	34	サラコケムシ科			102	シロボヤ			
	35	チゴケムシ			103	フタスジボヤ			
	36	チゴケムシ科			104	マンジュウボヤ			
	37	ハナザラコケムシ			105	マンハッタンボヤ			
	38	フサコケムシ			106	ユウレイボヤ			
	39	フサコケムシ科			107	ユウレイボヤ属			
頭足類	40	マダコ		種類数(種確定)		612			
	41	ヒメイカ	C	種まで確定しない種群数		86			
	41	ミミイカ		合計		698			

注) 1) 種類の記載順は各分類群の中で五十音順。アルファベットは先頭。
 2) WL 欄は大阪湾海岸生物ウエルカムリストの区分を示す。
 3) : 種まで同定されていないもの(種数に含めない。ただし、カニ類のヒラソガニ属は単一種とする)
 4) 「テッポウエビ属の一種 E」は、吉郷英範(2009)。日本の河口域とアンキアラインで確認されたテッポウエビ科エビ類(甲殻類:エビ目)。比和科学博物館研究報告(50)で報告された未記載種の特種(E)を示す。

3. 調査シートのリスト掲載種の出現状況

3-1. 令和7年度結果

調査シート掲載種の調査箇所別出現状況を表2に示しました。

なお、一連の環境で行われた近傍の地点は、出現頻度の過大評価を避けるため統合しました。

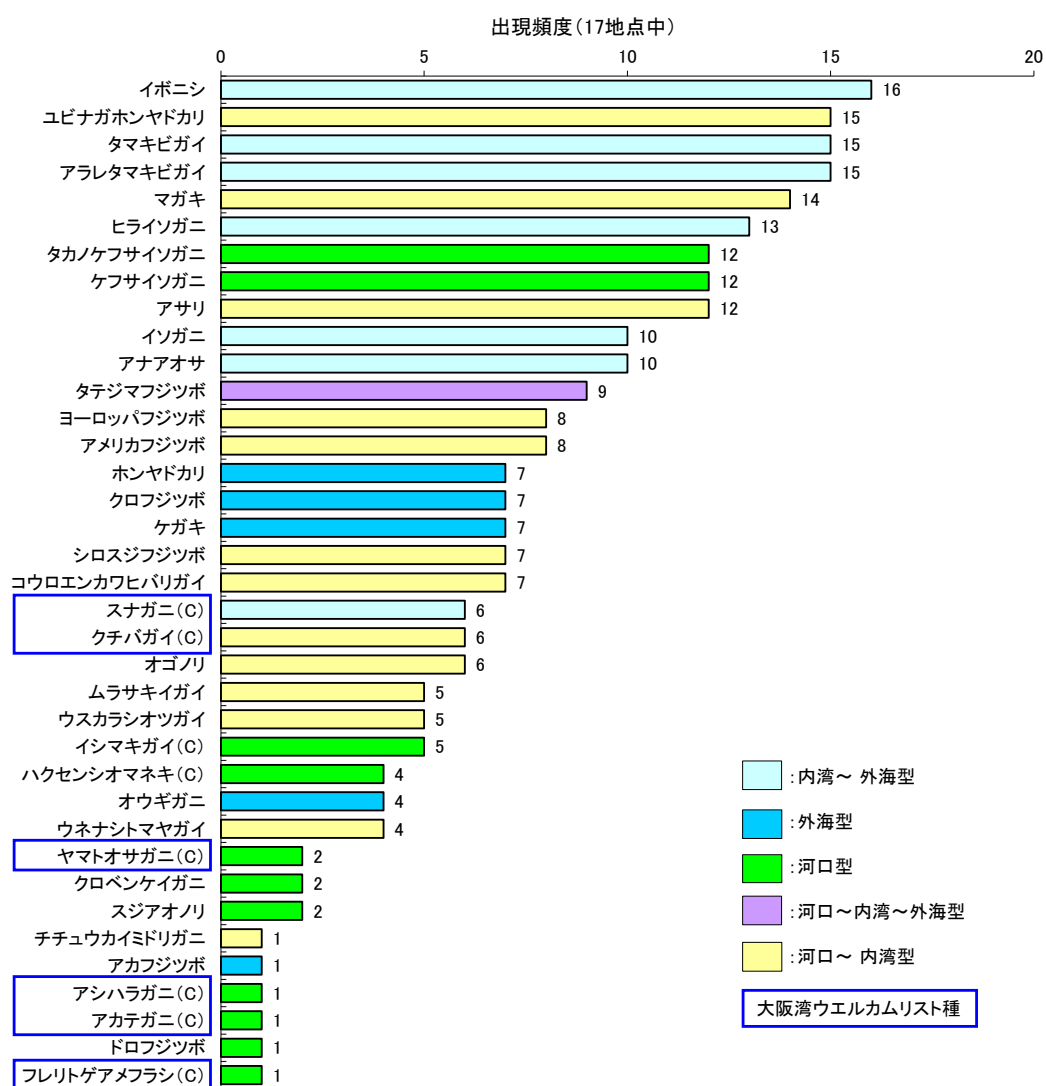
表2 調査シート掲載種の調査箇所別出現状況（令和7年度）

分類群	No.	和名・種名 / 地点	地点No.																	出現頻度（17地点中）	
			① ア ジ ュ ー ル 舞 子	② 香 榎 園 浜	③ 甲 子 園 浜	⑦ 高 師 浜	⑧ 大 津 川 河 口 干 潟 (左岸)	⑨ 阪 南 2 区 造 成 干 潟	⑩ 近 木 川 河 口	⑫ 櫻 井 川 河 口 ・ 岡 田 浦 海 岸	⑭ せ ん な ん 里 海 公 園 - 3 団 体	⑰ 住 吉 川 河 口	⑳ 天 保 山	㉑ 須 磨 海 岸	㉓ 長 松 海 岸 (長崎)	㉔ 深 日 漁 港 干 潟	㉚ 浜 寺 水 路	㉛ 城 ヶ 崎 (加太)	㉜ 成 ヶ 島		
海藻類	緑藻綱	1 アナアオサ	●		●		●	●		●	●				●	●		●	●	10	
		2 スジアオノリ			●						●										2
	紅藻綱	3 オゴノリ	●							●	●		●					●		6	
植物	1 オカヒジキ			●					●	●					●			●		6	
	2 ヨウボウムギ	●		●						●	●								●	5	
	3 ハマウド			●											●	●		●		6	
	4 ハマゴウ	●	●							●	●								●	6	
	5 ハマダイコン			●											●	●				4	
	6 ハマボウフウ	●		●							●	●								6	
貝類	貝(巻き貝)	1 アラレタマキガイ	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	15	
		2 イシマキガイ(C)		●							●	●				●	●		●		5
		3 イボニシ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	16
		4 タマキガイ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	15
		5 フレリトゲアメフラシ(C)															●				1
	貝(二枚貝)	6 アサリ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	12
		7 ウスカランオツガイ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	5
		8 ウネナシトマヤガイ		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	4
		9 クチバガイ(C)		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	6
		10 ケガキ(ケガキ属を含む)	□								□	□			□	□	□		□		7
		11 コウロエンカワヒバリガイ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	7
		12 マガキ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	14
		13 ムラサキガイ	●	●			●									●			●		5
フジツボ類	1 アカフジツボ														●					1	
	2 アメリカフジツボ		●	●	●		●				●	●	●			●				8	
	3 クロフジツボ	●								●	●			●	●		●	●		7	
	4 シロスジフジツボ	●			●					●	●					●				7	
	5 タデジマフジツボ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9	
	6 ドロフジツボ										●									1	
	7 ヨーロッパフジツボ				●	●	●			●	●			●			●			8	
ヤドカリ類	1 ホンヤドカリ	●												●	●	●	●	●	7		
	2 ユビナガホンヤドカリ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	15	
カニ類	1 アカテガニ(C)																		●	1	
	2 アンハラガニ(C)																		●	1	
	3 イソガニ	●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	10	
	4 オウギガニ	●																●	●	4	
	5 クロベンケイガニ													●					●	2	
	6 ケフサイソガニ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	12	
	7 スナガニ(C)			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	6	
	8 タカノケフサイソガニ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	12	
	9 チチュウカイミドリガニ																●			1	
	10 ハクセンシオマネキ(C)		●																●	4	
	11 ヒライソガニ	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	13	
	12 ヤマトオサガニ(C)	●	●			●														2	
その他	1 多毛類	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	17	
	2 ヨコエビ類		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	15	
種類数(●の数)			16	20	24	17	19	13	16	21	25	15	9	11	14	14	17	11	25	42	

注) 1) ●:種まで同定されたもの □:種まで同定されていないもの(種数に含めない)。
 2) 種類の記載順は各分類群の中で五十音順。
 3) 地点 No.14 は近傍3地点を統合した。
 4) 網掛けセル()は大阪湾海岸生物ウェルカムリスト(2022年版)の種で、()内はランクを示す。

調査シートのリスト掲載種の出現頻度を河口、内湾、外海等の生態型とともに整理し、図3に示しました。各種の生態型については、大阪湾生き物一斉調査解説ブック、第24回 淀川環境委員会 4.汽水域環境部会 汽水域生物環境評価WG報告の「分析対象種と類型」及び各種図鑑等に記載されている生態を参考に分類しました。

全体に河口～内湾型や内湾～外海型の種の出現頻度が高く、内湾～外海型の生物ではイボニシが17地点中16地点で確認され、次いで、タマキビガイ、アラレタマキビガイが15地点で確認されました。河口～内湾型の生物ではユビナガホンヤドカリが17地点中15地点で確認されました。河口型の生物ではタカノケフサイソガニ、ケフサイソガニが17地点中12地点で確認されました。なお、今年度は調査シートに掲載された37種（海浜植物6種除く）がいずれかの地点で確認されました。



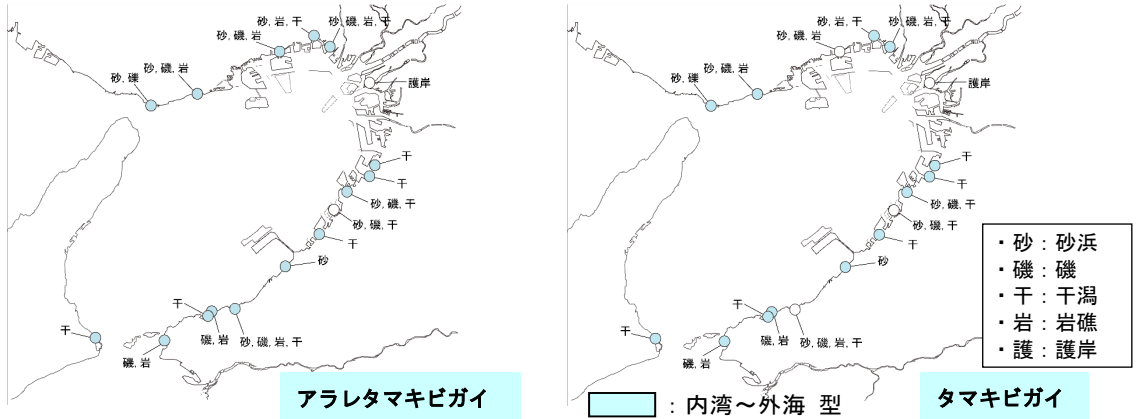
注) 種名の後ろの「(C)」は大阪湾海岸生物ウエルカムリストのCランクに該当することを示している。

図3 調査シート掲載種の生態型と出現頻度（令和7年度）

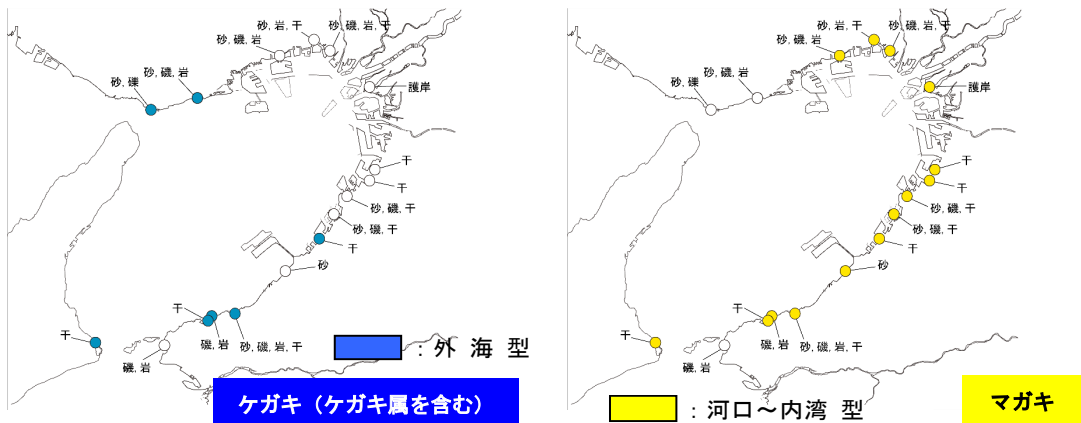
調査シートのリスト掲載種を中心に、大阪湾の代表的な種の分布を図4（1）～（4）に示しました。

貝類・ヤドカリ類

- アラレタマキビガイ、タマキビガイは内湾～外海型で、アラレタマキビガイは高潮帯の波しぶきの当たる所を好みますが、本年も静穏な湾奥まで広域で出現しました。タマキビガイは潮間帯に普通にみられ、河口の一部等を除いてほぼ全域で出現しました。



- 外海型のケガキ（ケガキ属を含む）は、湾中央域より湾奥では出現せず、これに対し河口～内湾型のマガキは湾口側の一部を除いて全域で出現しました。



- 外海型のホンヤドカリは、須磨海岸—せんなん里海公園ラインより湾口側で出現しました。これに対し、河口～内湾型のユビナガホンヤドカリは湾内のほぼ全域で出現しました。

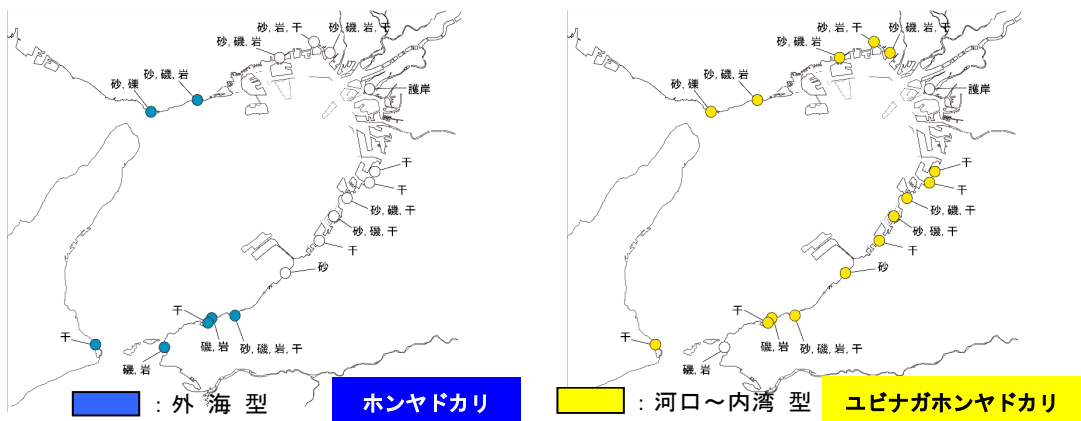


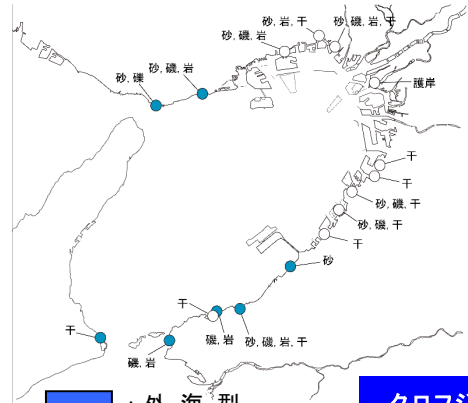
図4（1） 代表的な種の分布（貝類、ヤドカリ類）—令和7年度

フジツボ類

- 本年度は、外海型のアカフジツボは長松海岸でのみ出現しました。クロフジツボは須磨海岸～榎井川河口・岡田浦海岸ラインより湾口側で出現しました。



アカフジツボ



：外海型

クロフジツボ

- 河口～内湾型のアメリカフジツボ、ヨーロッパフジツボはやや湾口側を含めて湾中央～湾奥で出現し、シロスジフジツボは主に運河・河口地点で出現しました。

：河口～内湾型



シロスジフジツボ



アメリカフジツボ



ヨーロッパフジツボ

- 河口型のドロフジツボは湾奥で淡水の影響の強い河口付近の地点で出現しました。一方、広域型のタテジマフジツボは湾中央一帯で出現しました。

：河口型

：河口～内湾～外海型



ドロフジツボ



タテジマフジツボ

- なお、アカフジツボやドロフジツボは主に潮下帯に付着することから、観察される機会が少なかったことも考えられます。

図4 (2) 代表的な種の分布 (フジツボ類) - 令和7年度

カニ類

- 砂浜に生息するスナガニは、例年と同様に、主に湾中央～湾奥の砂浜がある地点で出現しましたが、本年は湾口側の成ヶ島、せんなん里海公園でも出現しました。

砂浜に生息する



□ : 内湾～外海 型

スナガニ (C)

- 泥干潟に生息するヤマトオサガニは泥質干潟のある大津川河口（左岸）等で出現し、砂礫性のハクセンシオマネキはそれ以外の河口地点で出現しました。

泥 <干潟に生息する> 砂泥、砂礫



ヤマトオサガニ (C)



ハクセンシオマネキ (C)

■ : 河口型

- アシハラガニやクロベンケイガニ、アカテガニは河口にある地点や成ヶ島で出現しました。

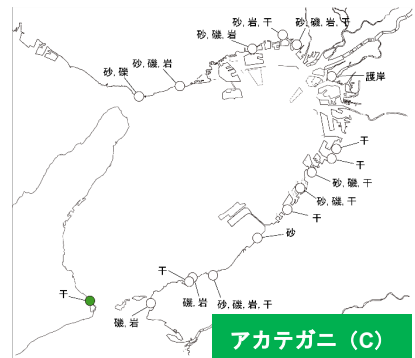
砂泥・粘土質 <河口のヨシ原等に生息する> 草地・崖・石垣



アシハラガニ (C)



クロベンケイガニ



アカテガニ (C)

■ : 河口型

図4 (3) 代表的な種の分布 (カニ類) - 令和7年度

外来種

- ミドリイガイは浜寺水路のみで出現しました。ミドリイガイは主に潮間帯下部～潮下帯に着生し、潮間帯の観察では見つけにくいため、出現地点は年により変わっています。

□ : 内湾～外海 型



- ムラサキイガイは湾奥の多くの地点や湾口側のアジュール舞子で出現しました。

□ : 河口～内湾 型



- コウロエンカワヒバリガイは湾中央～湾奥の多くの地点で出現しましたが、チチュウカイミドリガニは湾中央部の浜寺水路でのみ出現しました。

□ : 河口～内湾 型



- 河口型のイガイダマシは、昨年に引き続き確認されず、カニヤドリカンザシゴカイも確認されませんでした。河口～内湾型のウスカラシオツガイは湾中央～湾奥で出現しました。



■ : 河口型



■ : 河口～内湾 型



■ : 河口～内湾 型

図4 (4) 代表的な種の分布 (外来種) - 令和7年度
13

3-2. 過年度との比較

調査シートのリスト掲載種について、平成 20～30 年度及び令和元～7 年度の調査結果を併せて整理し、表 3 に示しました。

平成 20 年度の調査シート掲載種は 41 種でしたが、出現状況を踏まえ、平成 21 年度以降は一部の種の入替えや追加を行い、43 種（多毛類、ヨコエビ類含まず）を調査シートに掲載して実施しました。また、各調査地点の調査場所については、団体によっては調査海岸を変更している場合や、同一地点内で調査範囲を変更している場合がみられ、調査人数にも違いがあります。

令和 2 年度以降の調査については、新型コロナウイルスの感染防止のため、調査時期が地点毎に異なっている場合や、調査人数を制限している場合があります。

このため、18 ヶ年の出現状況を単純に比較することはできませんが、経年的にほぼ同一場所で調査されているとみられる調査地点同士についてみると、おおむね種数が近似しており、同様の種が確認されている場合が多いため、各調査地点における安定した出現特性が分かるようになってきました。

付表 1 (1) 令和 7 年度貴重種の出現状況一覧

分類群	No.	和名	該当RDB等	兵庫県 RDB 1)	大阪府 RDB 2)	環境省版 RL 3)	水産庁 RDB 4)	WWF干潟 RDB 5)	干潟の絶滅危惧 動物図鑑 6)	【参考】大阪湾ウ イルカ目リスト 7)	
海藻類	1	スジアオノリ					減少傾向				
	2	フサノリ		LE(県瀬戸内海沿岸)							
海藻類	1	ホソアヤギス		(絶滅危惧II類)	準絶滅危惧	準絶滅危惧				B	
	2	アマモ		(絶滅危惧I類)	アマモ類(生態系):A			希少		C	
植物 (調査シート掲載種)	1	コウボウムギ			絶滅危惧II類					B	
	2	ハマコウ			絶滅危惧II類						
	3	ハマボウフウ			絶滅危惧I類						
貝類	貝(巻き貝)	1	アカニン				減少	危険			
		2	アマガイ		(絶滅危惧II類)						
		3	イシマキガイ					減少			C
		4	イナザウハバガイ		(絶滅危惧II類)						C
		5	イボウミニナ		(絶滅危惧I類)	情報不足	絶滅危惧II類		絶滅寸前	絶滅危惧II類	B
		6	ウスコミミガイ		(絶滅危惧I類)	絶滅危惧II類	準絶滅危惧		危険	準絶滅危惧	C
		7	ウミニナ			準絶滅危惧	準絶滅危惧	減少傾向	危険	準絶滅危惧	C
		8	カヤノミカニモリ			準絶滅危惧	準絶滅危惧		危険	準絶滅危惧	
		9	キンランカノコ		(絶滅危惧I類)		準絶滅危惧		危険	準絶滅危惧	A
		10	クリイロカワザンショウ属		(絶滅危惧II類)		準絶滅危惧		危険	準絶滅危惧	
		11	シボリガイ			準絶滅危惧					C
		12	シラキガイ		(絶滅危惧I類)		準絶滅危惧		危険	準絶滅危惧	
		13	スオウクチキレガイ			準絶滅危惧	準絶滅危惧		危険	準絶滅危惧	
		14	イボミガイ		(準絶滅危惧)		準絶滅危惧				B
		15	ヒモイカナマツマミガイ		(絶滅危惧I類)	絶滅危惧II類	絶滅危惧II類		危険	絶滅危惧II類	C
		16	フトヘナタリ			準絶滅危惧	準絶滅危惧		危険	準絶滅危惧	C
		17	ホルウミニナ			絶滅危惧I類					C
		18	マルウスラタマキガイ						危険		C
		19	ミヤコドリガイ		(絶滅危惧I類)	絶滅危惧II類	準絶滅危惧		危険	準絶滅危惧	C
貝類	貝(二枚貝)	1	イワガキ				減少傾向			C	
		2	ウズクラガイ		(絶滅危惧II類)		準絶滅危惧		準絶滅危惧	B	
		3	ウネナシトマヤガイ				準絶滅危惧	危険			
		4	カガミガイ			準絶滅危惧					C
		5	クチバガイ			準絶滅危惧					C
		6	トオリガイ			準絶滅危惧		危険			B
		7	タガソデモドキ			準絶滅危惧	準絶滅危惧	危険	準絶滅危惧		
		8	チリハキガイ			準絶滅危惧					B
		9	ニッポンマアゲマキガイ		(絶滅危惧I類)		準絶滅危惧			準絶滅危惧	B
		10	ハカガイ			準絶滅危惧					C
		11	ヒメアサリ			準絶滅危惧					
		12	マテガイ		要注目	準絶滅危惧					C
		13	ユウシオガイ		(絶滅危惧I類)	絶滅危惧II類	準絶滅危惧		危険	準絶滅危惧	C
多毛類	1	タマシキゴカイ		(準絶滅危惧)	準絶滅危惧					C	
ヨコエビ・ワレカラ類	1	ウエドロクダムシ			情報不足						
ヤドカリ類	1	テナガツノヤドカリ				情報不足			準絶滅危惧	C	
	2	ヨモギホンヤドカリ				準絶滅危惧			準絶滅危惧		
カニ類	1	アカテガニ		(絶滅危惧II類)						C	
	2	アシハラガニ		(準絶滅危惧)						C	
	3	オサガニ		(絶滅危惧I類)	準絶滅危惧	準絶滅危惧			準絶滅危惧	C	
	4	クロベンケイガニ		(準絶滅危惧)							
	5	スナガニ		(絶滅危惧II類)	準絶滅危惧					C	
	6	スネナガイソガニ		(準絶滅危惧)	準絶滅危惧			希少	準絶滅危惧	C	
	7	トリウミアカイソモドキ		(絶滅危惧II類)	絶滅危惧II類	準絶滅危惧		危険	準絶滅危惧	B	
	8	ハウセンシオマナキ		(準絶滅危惧)	準絶滅危惧	絶滅危惧II類		危険	準絶滅危惧	C	
	9	ヒメヤマトオサガニ		(絶滅危惧II類)	準絶滅危惧	準絶滅危惧			準絶滅危惧	B	
	10	フタハカクガニ		(絶滅危惧II類)						C	
	11	マメコシガニ		(絶滅危惧II類)	準絶滅危惧				準絶滅危惧	C	
	12	モクスガニ					減少傾向				
	13	ヤマトオサガニ		(準絶滅危惧)						C	

付表1(2) 令和7年度貴重種の出現状況一覧

分類群	No.	該当RDB等 和名	兵庫県 RDB 1)	大阪府 RDB 2)	環境省版 RL 3)	水産庁 RDB 4)	WWF干潟 RDB 5)	干潟の絶滅危惧 動物図鑑 6)	【参考】大阪湾ウ ェルカムリスト 7)
魚類		1 タケノコメバル							
		2 トサカギンボ	要調査						
その他	頭足類	1 ヒメイカ		絶滅危惧II類		減少			C
	アナジャコ類	1 ハルマンスナモグリ	(絶滅危惧II類)	絶滅危惧II類					C
		2 ヨコヤアナジャコ	(準絶滅危惧)	準絶滅危惧					C
	エビ類	1 エビジャコ属	(絶滅危惧II類)						
		2 クルマエビ	(準絶滅危惧)	準絶滅危惧					C
		3 テツボウエビ	(準絶滅危惧)						C
	ナマコ類	1 ヒモイカリナマコ	(絶滅危惧II類)	準絶滅危惧			危険		C

注)

1) 兵庫県版 レッドリスト2014(貝類・その他無脊椎動物)、レッドリスト2020(植物・植物群落)、兵庫県版レッドデータブック2017(魚類)
()は兵庫県評価を「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 -レッドデータブック-」の相当カテゴリーに置換したものを。

LEは地域絶滅危惧種を示す。

2) 大阪府 レッドリスト2014

3) 環境省 レッドリスト2020、2025、海洋生物レッドリスト(2017)

4) 水産庁.1998:日本の希少な野生水生生物に関するデータブック.社団法人日本水産資源保護協会.437pp.東京.
評価「普通」は省略した。

5) WWF Japan Science Reprint vol.3.1996.

6) 日本ベントス学会編 2012. 干潟の絶滅危惧動物図鑑-海岸ベントスのレッドデータブック- 東海大学出版会. 神奈川県. 285pp.

7) 大阪湾海岸生物ウェルカムリスト(無脊椎動物・海藻・海草、2022年版)は1)~6)で選定した貴重種について該当状況を示した。
区分は以下のとおりである。

A: 大阪湾内では近年(1950年代以降)の記録が無い(ただし近隣海域では記録されている)種。あるいは記録がごく限られていて、
生育・生息基盤が脆弱であると考えられる種。[目安として、文献等による記録・情報が0-2箇所以下]

B: 大阪湾内では産地に限られていて、今後分布の拡大が期待される種。[同3-5箇所]

C: 大阪湾内では多数の地点で記録され、かつ良好な環境(水質・底質・地形)の目安となる種。[同6箇所以上]

8) 貴重種選定にあたり、基本的に水生動植物を対象とし、陸上植物は本調査の調査シート掲載種に限定した。

9) 各評価の区分と定義概念は下記による。特に区別の記載のない区分は環境省に準ずる。

絶滅危惧I類: 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。

絶滅危惧II類: 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧I類」のランクに移行することが確実と
考えられるもの。

準絶滅危惧: 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。
情報不足: 評価するだけの情報が不足している種。

地域個体群: 地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの。

要注目種(兵庫): 最近減少の著しい種、優れた自然環境の指標となる種などの貴重種に準ずる種。

要調査種(兵庫): 環境省レッドデータブックの情報不足に相当。兵庫県において評価するに足るデータがない種。

要注目種(大阪): 「絶滅」「絶滅危惧」「準絶滅危惧」「情報不足」の区分以外で大阪府において保護上重要なもの。

減少傾向(水産庁): 長期的にみて減少しつつあるもの。

減少(水産庁): 明らかに減少しているもの。

希少(水産庁): 存続基盤が脆弱な種・亜種。

危急(水産庁): 絶滅の危険が増大している種・亜種(環境省に準ずる)。

危険(WWF): 絶滅に向けて進行しているとみなされる種。今すぐ絶滅という危機に瀕するということはないが、現状では確実に絶滅の方向へ
向かっていると判断されるもの。

希少(WWF): 特に絶滅を危惧されることはないが、もともと個体数が非常に少ない種。「普通」/「希少」は地域により評価が異なる場合。

10) 表中網掛けは、評価指定後、今年度初確認の貴重種を示す。従って、評価指定以前に出現している場合もある。

11) 貴重種記載資料の該当府県の場所では出現していない場合もある。

5. アマモ場等調査

アマモ場を造成している地点等では、アマモ場の生き物等について調査を実施しました。

アマモは海草の一種で、波が穏やかな、太陽の光が届く浅い砂地の海辺に生えます。アマモがたくさん生えている場所を「アマモ場」と呼びます。「アマモ場」は小さな魚の隠れ処になったり、魚やイカが産卵する場所になります。そのため、「海のゆりかご」とも呼ばれます。

男里川河口干潟では84種の生物が確認され、海藻類が最も多く20種、次いで魚類が18種、植物が15種でした。尾崎海岸では99種の生物が確認され、植物が最も多く28種、次いで海藻類と魚類が20種でした。波有手海岸では113種の生物が確認され、海藻類が最も多く30種、次いでそのほかが18種、魚類と植物が17種でした。箱作自然海岸では79種の生物が確認され、植物が最も多く27種、次いで海藻類が15種、魚類が12種でした。

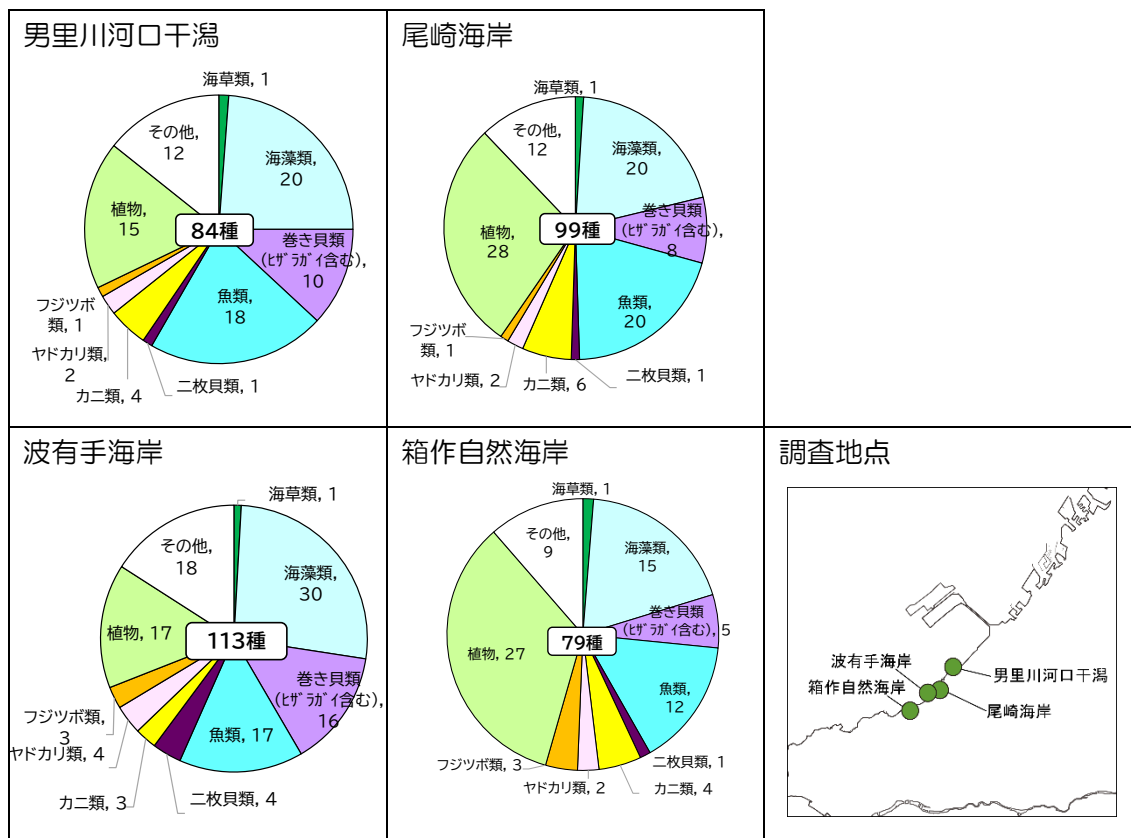


図6 アマモ場等調査の生物確認状況（令和7年度）

7. スナメリ調査

5月7日に図7に示す経路で調査を実施しました。

今回の調査では、泉南～泉佐野沖で2群4頭を確認しました。

かつて瀬戸内海には多くのスナメリが生息していましたが、現在ではほとんど目にする
ことがなくなりました。

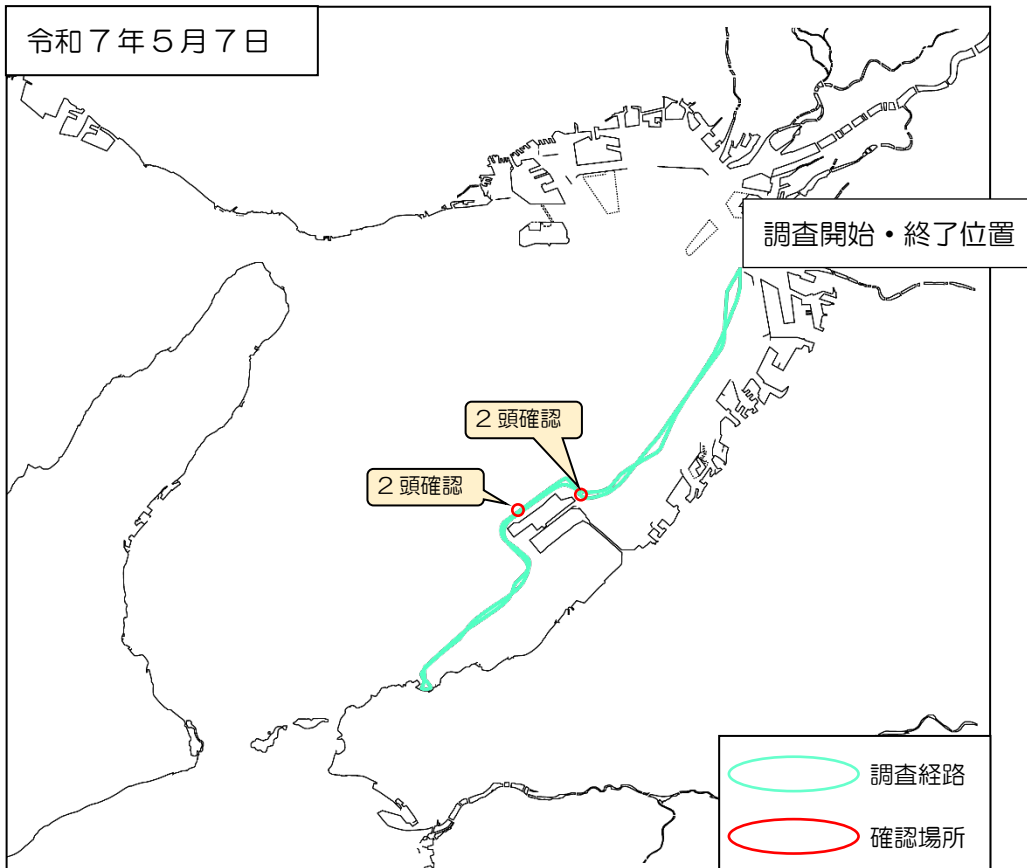


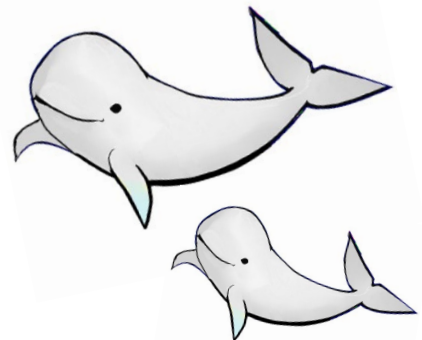
図7 スナメリ調査の経路と確認状況（令和7年5月7日）

【スナメリとは？】

水産庁のレッドデータブックに掲載されています。

- 英名：Finless porpoise
- 学名：*Neophocaena asiaeorientalis*
- 地方名：ナメ・ナメソ など
- 分類：クジラ目ハクジラ亜目 ネズミイルカ科
- 体長：最大2m程度
- 大阪湾におけるスナメリの生態的位置づけ：

スナメリの生息は健全な沿岸生態系のひとつの指標



スナメリ